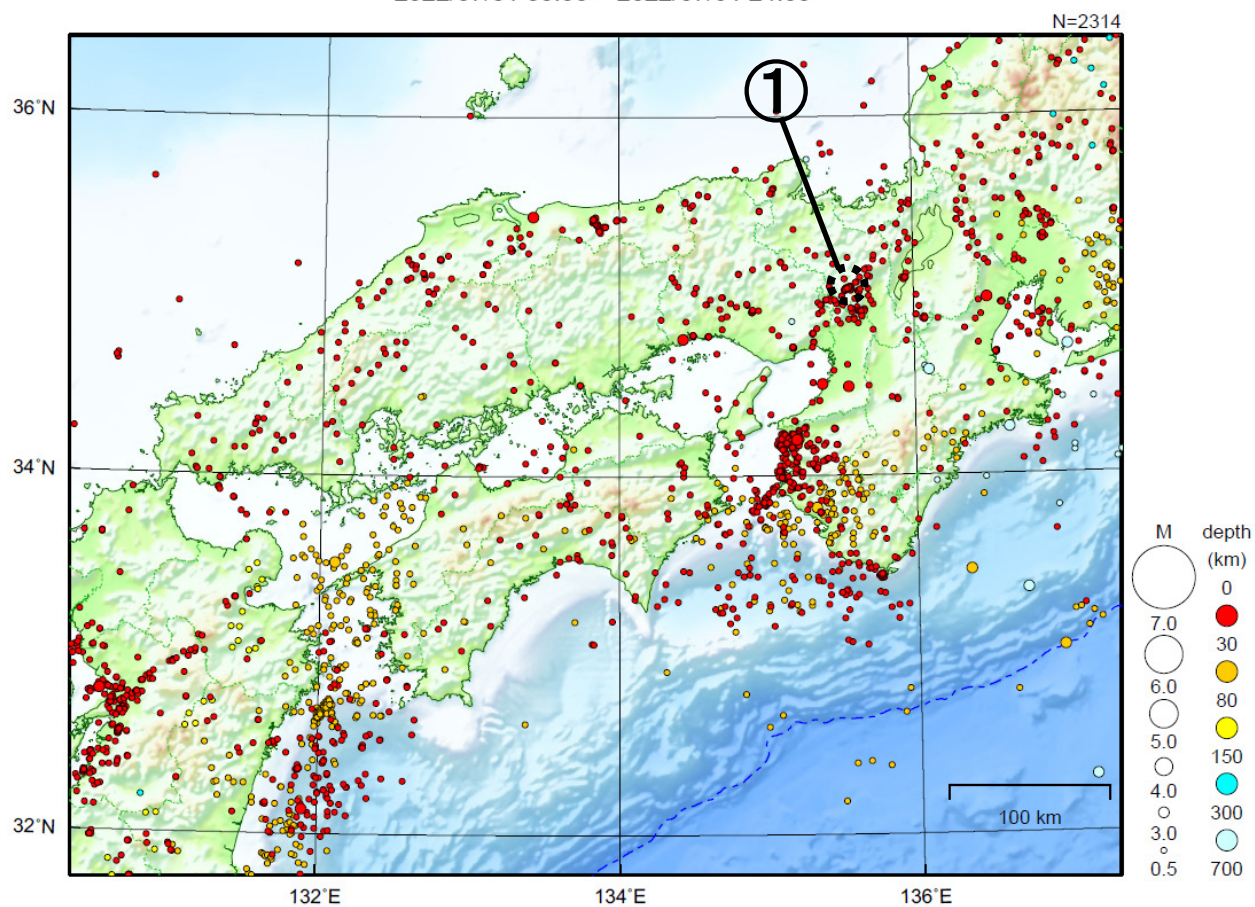


近畿・中国・四国地方

2022/07/01 00:00 ~ 2022/07/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 京都府南部で 2022 年 3 月 31 日から続いていた地震活動は、6 月中旬以降は落ち着いてきている（7 月中に震度 1 以上を観測した地震はなかった）。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

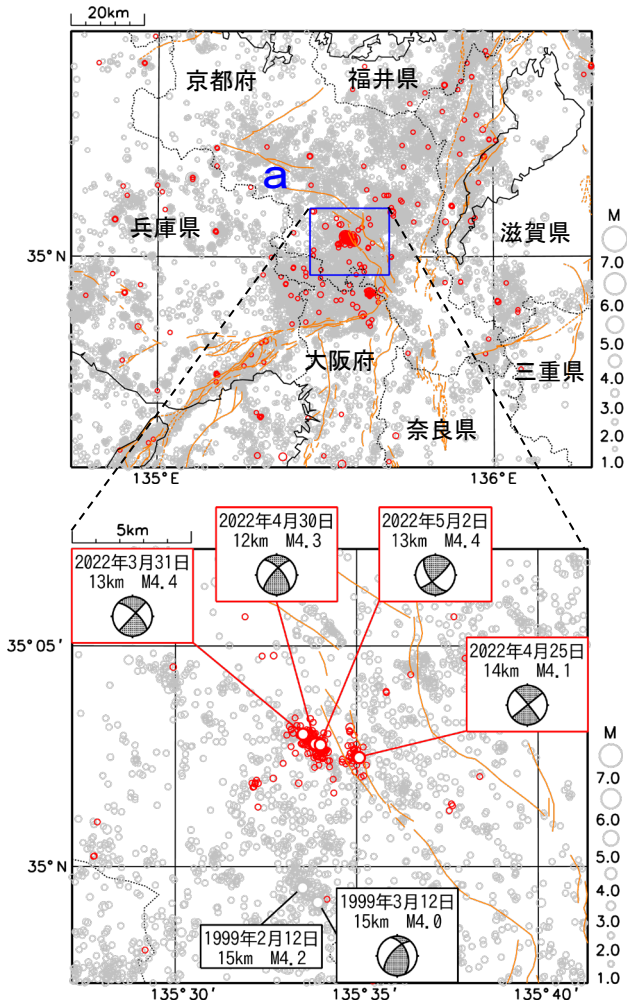
気象庁・文部科学省

3月31日からの京都府南部の地震活動

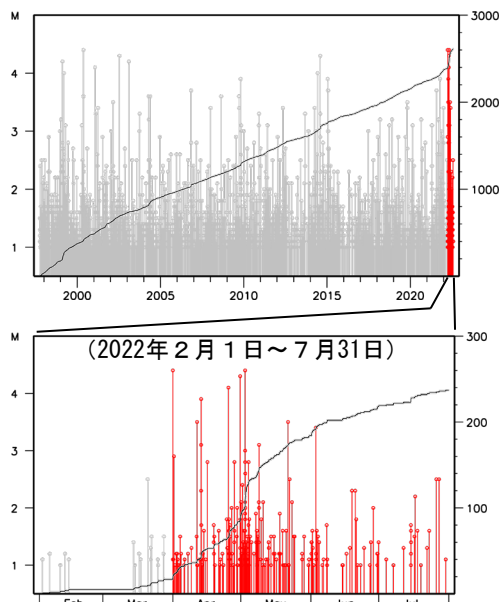
震央分布図

(1997年10月1日～2022年7月31日、
深さ0～20km、 $M \geq 1.0$)

2022年3月31日以降の地震を赤色で表示



領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



京都府南部では、2022年3月31日頃から地震活動が活発となり、7月31日までに震度1以上を観測する地震が16回(震度4:2回、震度3:2回、震度2:4回、震度1:8回)発生した。この間、地震活動は消長を繰り返しながら継続してきたものの、6月中旬以降はそれ以前と比べると活動が落ち着いてきており、7月中に震度1以上を観測する地震はなかった。

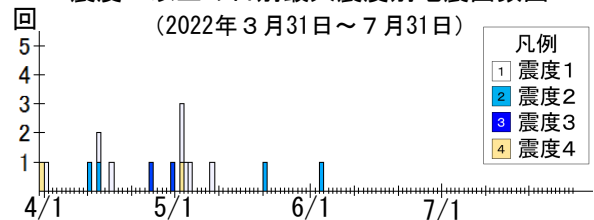
3月31日から7月31日に発生した地震のうち、M4.0以上の地震は4回発生しており、最大規模の地震は、3月31日に深さ13kmで発生したM4.4の地震及び5月2日に深さ13kmで発生したM4.4の地震(ともに最大震度4)であった。これらの地震の発震機構は、東西方向もしくは西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

1997年10月以降の活動をみると、今回の活動域付近(領域a)では、M4.0程度の地震が時々発生している。このうち今回の活動のように、1ヶ月ほどの期間内にM4.0以上の地震が複数回発生するような活動は、今回の活動域のやや南側でも1999年2月から3月にかけて発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の活動域周辺(領域b)では、M5.0以上の地震も発生しており、2018年6月18日には大阪府北部の地震(M6.1)が発生し、死者6人、負傷者462人などの被害が発生した(2019年4月1日現在、総務省消防庁による)。

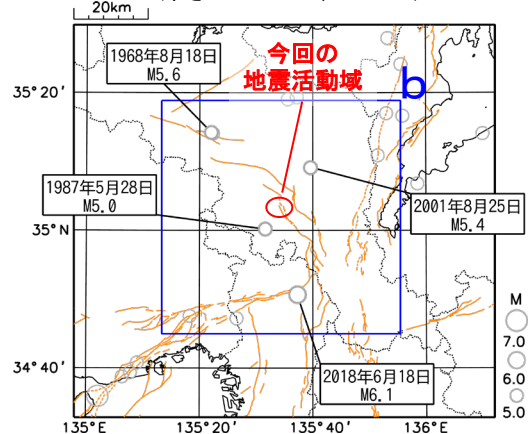
震度1以上の日別最大震度別地震回数図

(2022年3月31日～7月31日)



震央分布図

(1919年1月～2022年7月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)



震央分布図中の橙色の実線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

気象庁作成